



地球



連邦軍



特殊

衛生班の



ヨ
○
コ



さん

『…………冗談にしてもまったく笑えない話ね。
貴方、本気でそんなことが許されると思ってるの?』

「許されるも何も、説明した通り特殊衛生班は連邦軍の正式な部署ですよ」

『女性たちに…見ず知らずの男の性欲処理をやらせるだなんて
連邦軍もずいぶん腐ってたのね』

「いえいえ、これは必要なことなのですよ。」

日々命がけで戦うパイロットやクルーたちの多くは男……
彼らのストレスを緩和させるには女性との…特に貴女のような
魅力的な女性とのセックスが最も効果的なのです」

『ふざけないで! 女を道具扱いするだなんて最低最悪だわ…!!
今すぐこんなこと止めなさい! さもなければ私たちが力づくでも……』

「やれやれ…困りましたねえ。まあ、最初は誰でもそんな反応なのですが。
では……話はこれをご覧いただきながらとしましょう」



「あッ…あッ、はあん!? んっ…やああ…ダメえッ」

「おほおお…ダリーちゃんの内、今日も気持ち良いぜえ。
俺のをきゅんきゅん締め付けてきやがる…たまんねえ」

「ん…ッ!? あ、いやあ…言わないでッ。あんッ…あッあッ、あ♡」

「すっかり俺のを気に入ったみたいだな。
くほお…ほれっ…ここが良いんだろ」

「きゃうん!? んッ…んあ!? そこっ…やめてえ…♡
声、我慢できなくなっちゃ…」

「ああ…もつと可愛い声聞かせてくれよ。すげえ興奮するからさあ」

「いやッ…あッ、あ! あッ!?
んっく…ダメッ、あッ…良いの…気持ち良い♡」



『そんな……ダリー……!』

い、今すぐ止めさせなさい!! いえ……これはどこ!?
ダリー! 今すぐ私が助けに……!』

「助ける? 彼女はあんなにも幸せそうではありませんか。
心配せずとも、貴方もすぐに男を癒すこの任務の虜になりますよ」

『黙りなさい。そんな醜悪なモノ私たちがぶち壊す。
このコも他の女性たちも助けるわ!』

「はあ……しかたありません。では、今から膣内射精を解禁しましょう」

『……は!?』

「あー、あー……コホンっ。お楽しみ中の皆さん、聞こえますか？」

突然ですが今から避妊具をは……!」

『待つて……!! それ……だけは……駄目。お願い……だから』

「……失礼、引き続きお楽しみください。」

さて……ヨーコさん、何か言うべきことがあるのでは？」

『く……貴方に、従うわ。』

けど……私のことを好き放題出来るとは思わないことね』

「結構……!」



「さて……さっそくではありますが
まずは身体検査を行わせていただきます」

『ふん……！ 好きにすれば？』

どうせイヤらしいことするつもりなんでしょーし』

「いやいや、これは特殊衛生班男性スタッフの大切な仕事なのですよ。
貴女のような新顔さんの……身体……をしつかりとチェックするのがね」

『……………最低だわ』

「まあヨーコさんの場合はほぼ丸見えですからなあ……………くくく
いやあ本当に素晴らしいコスチュームで。」

この豊かな乳房がこぼれて出てしまわないか心配になりますよ」

『余計なお世話よ』

「過去の記録映像よりもさらに大きくなったようですね……素晴らしい。
あの幼さの残る顔立ちと巨乳、ビキニの組み合わせもそろりましたが」

『……………』

「ところでヨーコさん、胸のカップサイズを教えてくださいても？」

『勝手に測ればいいじゃない……………身体検査なんでしょ？』

「確かに！ ふうむ……ふむ……………G……H……………I。」

目算ですがEカップでは？ ほらちゃんと答えていただかないと……………？」

『くツ……………あつてるわよ……………』

「エカップ!! 我が班で間違いなく五本の指に入る大きさですよ。この乳房目当てに男性陣の予約が殺到するでしょうなあ……やはり巨乳好きが多いですから」

『……そんなに胸が好きならママにでも甘えてればいいのよ』

「くくく…これは手厳しい。

では、ヨーコさん…胸を揺らしていただけますか？
ほら、跳ねるようにして」

『は？ 何でそんなこと……』

「コックピットの中ではないつも

ブルンブルンと揺らしているじゃありませんか。

アレは良い眺めですよ

実際にこの目であの揺れ具合を確認しておかねばなりません」

『つ………男を喜ばせるためにやってるんじゃないわよ』

「ヨーコさんにその気はなくとも

あの揺れっぷりを見ればほとんどの男は欲情しますとも。

貴女の仲間の方々も映像をコピーして楽しんでるのでは？」

『………ありえないわ』

「いつもチラチラと盗み見るだけでは

男の性欲は溜まっていくばかりですからね。

映像を見て乳房の柔らかさを妄想し

挟んでしごいてくれるヨーコさんを思い描きながら……」



『やめて……!! みんな…そんなことしないから……!!』

「いいえ、しますとも。

あわよくばヨーコさんの身体を自分のモノにしたいと……

抱きたいと切望しています。

良かったですね……ここなら、皆さんの欲望も満たされますよ」

『み……みんなも、来るの?』

「ええ……お望みならば……ですが。」

まあ、競争率がかなり高くなるだろうヨーコさんとの一夜を楽しむまでには忍耐が必要になるでしょうね」

『……………ッ』

「乳房を揺らすのは彼らにとっては大サービスになりますよ? ほら……思い切ってください」

『い、嫌よ……!!』

「やれやれ……でしたらこちらで勝手にやらせていただきます。……ちよつと失礼しますよ」

『……………なっ? 待って、いや……だから! あ……ッ!?!』

「おおお……! さすがに重いですなあ。さあ揺らしますよ……おっほお! これはすごい、間近で見るとなんとという迫力!! いやしかし零れないものですね

このポリウムがよくこんな薄い布地の中におさまるものだ」

『こんなの……ほんと、本当に最低……』



「本番ではちゃんと自分で揺らすんですよ?

ああ……タブタブと柔らかく変形して実に魅惑的ですなあ。それにこの水風船のような張り……

若さもあります、これ程のモノはまさに逸品だ。

この胸を独占できる男が実に羨ましい。

……もちろんそんなお相手はいるのでしょうか?」

『貴方の……知ったことじゃないわ』

「では……そろそろ乳房を生で見させていただきましょうかね」

『ッ!? ふん……か、勝手に見なさいよ』

「おやおや? これだけ露出度の高いコスチュームを着ていても肌を直接見られるのには抵抗がありますかな?」

『あ、当たり前でしょ……!?』

「ヨーコさんほど気丈な方ならたとえ全裸を見られようと強気に振舞うのではないかと思っていましたので。」

特に私のようなどうでもいい男が相手なら見せつけてやるくらいの態度を期待していたのですが」

『人を何だと思ってるのよ……露出魔みたいにならないでくれる?』
ほ、ほら……さっさと脱がせれば!?』

「いえ、ここはヨーコさんご自身に脱いでいただきます。さすがに女性の服を無理やり脱がせるのはマズいでしょう? 我々は連邦軍なのですから」

『こんなことしておいて、いまさら何言ってるのよ』

「とにかく脱いでくださいヨーコさん。」

分かってますよね、あまりわがままをおっしゃられると……」

『く……っ、分かってる……分かってるわよ……今、脱ぐから』

「どうしました? 焦らして私を誘惑しているのですかな?

私としてはヨーコさんには堂々と勢いよく脱いでほしいのですが」

『うるさい……! 黙って、見てなさいよ……!』



『は、はあ………ほら、脱いだわよ。こ…これで満足?』

「おおお…!! これはこれは……くくくく。見惚れてしまいますなあ」

『……くッ、ジロジロ見ないで…変態!』

「いやいや。この乳房を前にして見るなどというのは酷ですよ。

男なら誰でも……たとえ一部の特殊な趣味の方であろうともね

これは凝視せずにはいられませんとも」

『……ふんッ』

「しかし、何という迫力でしよう!

これだけの大きさが何の支えも無しにこの美しい形を保つとは素晴らしい。

それに……これはまた意外でしたよ。

陥没乳首とは。

これが恥ずかしくて生で見られるのに抵抗があったのですかな?」

『別に……そんなことないわ…!』

「恥じることなどありませんよ? 陥没乳首…良いじゃありませんか。

私はむしろ好きな方ですて嬉しいですよ。

それに需要もありますからね、安心してください」

『ッ!? 黙りなさいよ』

「いやいや……これは楽しみが増えましたなあ、くくくく。

乳房だけでなくこの陥没乳首も

じっくりチェックしてあげますからねえ…ヨココさん」

『や………くう………す、好きにすれば?』



「さてさて……まずは真面目な検査といきましょうかね。
ヨーコさん、失礼しますよ」

「ん……ッ!? ふう……ン………な、何やってるのよ?」

「くくく……分かりませんか?」

乳房の重さをチェックしているのですよ。
これはとても重要なことなんです」

「……はっ! 私の胸は何kgだから注意しろ……でも言うわけ?
ホント馬鹿みたい……いかがわしいことのやりすぎで
頭どうかしちゃったんじゃないの?」

ふう……ッ

「これは手厳しい、くくく………それにしても重いですねえ。
バストサイズの大きい女性は肩がこるでしょう?」
ヨーコさんもさぞ大変でしょうね」

たぶん たぶん

「別に………んッ……あ……貴方なんかの心配は無用よ」

「よろしければ私が定期的に肩をお揉みしますよ。
それともこうして乳房を支えてさしあげましょうか?
楽でしょう……ねえヨーコさん」

『必要無いって言ってるでしょ!?
ていうか……いつまでやってるのよ、これ』

たぶん たぶん

『くう……ん。な、なんの……?』

「おっと……きめ細やかな肌の手触りと乳房の柔らかさに
柄にもなく夢中になっていたようです。
ああ……重さだけで柔らかな乳房の中に
私の指が沈み込んでいきますよ。
そろそろ私も我慢ができなくなってきましたようです」

「おほあ…これは良い揉み心地だ。」

どこまでも柔らかく、それでいてたまらない弾力で私の指を押し返してきますよ。

これはいつまでも揉んでいられますなあ」

『ん…ふう……んツ。あ、貴方ね…検査とか言ってるんだから少しはそれらしくしたらどうなの？』

「それもそうですよね。では乳房の弾力性のチェックということにしておきましょうか。女性の乳房の弾力も人それぞれですからね」

『くう…ん！なら……これだけ揉めばもう分かったでしょう!?もういい加減に…あッ♡』

「おや？ どうしましたヨーコさん。」

何やら少し甘い声が聞こえましたが……」

『んんツ……き、気のせいよ！ うん!? あ…待って……やッ♡』

ムギッ♡

もみ♡

もみ♡

ムミ♡

「どうやら弱いポイントがあるようですねえ。さて？ ヨーコさんの弱点はどこですか」

『はう!? あ…ヤダ……っ

肌、撫でるみたいにしてないで…!!ひゃうツ!?

ん…もう！ わ、分かってるくせに白々し……くうン♡』

「くくく…やはり陥没したままでも

乳首の周りは敏感なんですネヨーコさん。こんな風に軽く擦ってみると……」

『はん♡

そッ…そこは誰だって敏感でしょ!?や……くうツ！

調子に乗らないでよね…私は、これくらいじゃあつ…んんんツ!!』

『ふう……んツ……はあ、はああ……あん♡
し、しつこいわよ……いくら触られたって、こんな……』

「いやいや、良い反応じゃないですかヨーコさん。
しっかり感じているのでしよう？」

『べっ……別に感じてるわけじゃないわ！
そこ……び、敏感だから……くすぐったいだけ』

「くくく……でしたらもうしばらくいじってみましょうか。
乳首の感度チェックは重要ですからね」

『くうん!? ああ……もう……あッ♡
ふっ……ふう……!! いい加減に……んんツ!!』

ブルン♡

「おや? 感触が変わって……」

乳輪の中で乳首が硬くなってきたようですね。
まさに感じている証拠ではないですか、ヨーコさん？」

『さ、触られれば硬くなるのだって普通のことでしょ!?
気持ち良いわけじゃないわ……!!』

「そうですか?
では、もっと直接触って確かめてみましょうかね」

『あっ……はあ……ん、は?』

え……ちょ、何を!? あ……やめっ……!!
い、いや……!! やめなさいってば……!!』

「そんなに動揺しなくてもいいんじゃないですか?
おち……! 綺麗な乳首だ……美味しそうですよ?」

『なツ……!!』

ぐいっ♡

『ちょ…ちよっと!? 広げないでっば! ひう!? 近いっ…近いから!!』

「口ではそう言っても本心では期待してるんじゃないですか? 乳首は物欲しそうに震えてますよお? ふうふう…!」

『んんツ♡ そ、そんなわけが…待って、待って!!』

「私も辛抱たまりませんのでね。
では…待望の味チェックを…」

『やッ…うんん!? やめなさ…いい♡
あッ、ああ♡ き…気色悪いのよ!!』

「ちろ…ちろ、ちろっ…ぬちゅ、れろお…れろれろ!」

『くううン♡ こ、この…! あッ!』

い…いい歳して乳首に夢中だなんて…みつともないっ…んツ♡

「れろろろお…!!」

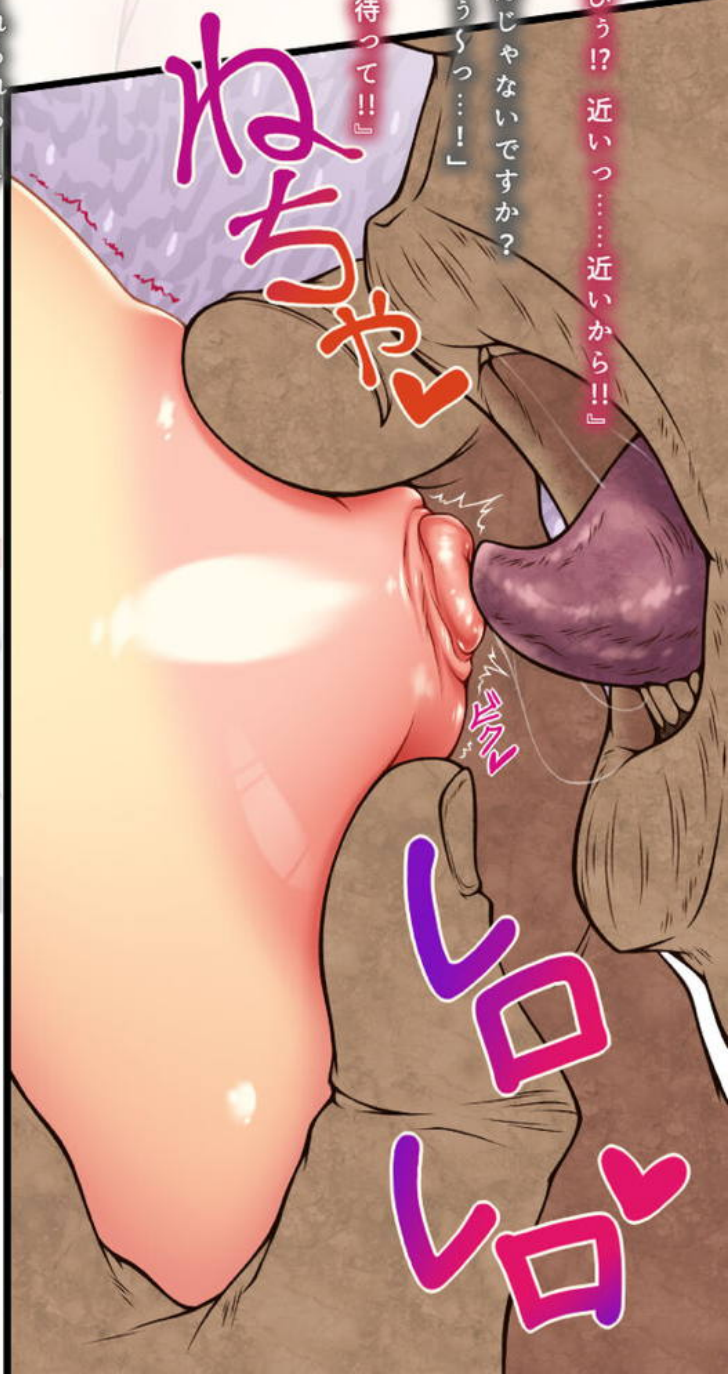
『きやう!? んあ、ダメ…! やッ…ああ…んツ♡
わ、私が…こんなことで…うああッ♡』

「じゅるう…いやあ、美味しいですよヨーコさんの乳首は」

『味…なんて…するわけが…あン♡
んつくう…ン! んツ…うんん、ふあ…いやあッ!』

「くくく…男には分かるですよ。」

懐かしいミルク風味の甘ったるい味がね」



「じゅぶ…じゅるう！ んちゅ、ちゅばあ…！」

『あッ…ああッ!? うん！ や、もう…やめ……て、はあ♥』

(今日会ったばかりの最低な男に、胸を好き放題に揉まれて大切な人にしか許さなかった…)

恥ずかしい乳首をいじられて…しゃぶられてるなんて気色悪い…気持ち悪い……はずなのに…なんで…?)

「んちゅううう…っ!!」

『ひい♥吸っちゃ…!?』

んあッ、ああ♥吸わないで……いやああ!?

(こ、こんな激しくされたこと…ない！)

乳首が熱い…変になっちゃう。

ああ…死ぬほど嫌なはずなのに…き、気持ち良…)

「ぷはあ……っ！ くくく、ほらヨーコさん

自分でご覧になってください…見事な起ちっぷりですよ」

『はあ…はあ、ああ……え？ ツ!? な……う、うそ…!?』

むいゅ♡

「私の舌づかいをよっぽどお気に召してくれたようですねぇ
くくく、光栄ですよ」

(初めて見る…私の乳首が…こんな!? し、信じられない)

「充血してパンパンに張りつめていますね
…まるで母乳が噴き出る寸前のようなだ」

『そ、そんなわけ…ないでしょ!? ふあッ♥
揉まないで……あ♥敏感に、なってるから…!』

モギゅ♡

「おお、そうでした！
すみません：私としたことがすっかり忘れていました」

『はあ…あ、ああ……ん？ な…何言ってるのよ？』

「片方ばかりでこちらの乳首をチェックしていませんでした。
申し訳ありません：ヨーコさん。
では早々に味の確認とまいりましょう…：じゅぶう！」

『はン♡ あッ…ダメ！ これ以上は…：もうんんッ！？
やつ…ああ……ひいう…いやあッ♡』

「ちゅう！ ぢゅう…！！ じゅるう…：ぶはあッ。
くくく…こちらも美味しいですよ？
あつという間に硬くなって…：ほら、もうこんなに」

れえ♡

ちやー

ぢゅー♡

うに♡
うに♡

『あッ♡ ああ…いや……!!?
なんで私の身体…：こんな簡単に…：きやん♡』

「どちらもプリプリとした舌触りで絶品だ。
これをヨーコさんの喘ぎ声を聞きながら堪能…：まさに男の夢ですね」

『ひッ…うあ♡ バ…バカなこと言っ…：ああッ!!?
両方いっぺんには…：んああッ♡
ダメ、ダメッ…ダメ!! いあ…：き、気持ち良すぎちゃ…：ふああッ♡』

「そうそう…：我慢せずにたっぷり鳴いてください。
その方がモニターの向こうの皆さんに喜んでいただけますからね」

『モ…：モニ…ター？ はあン♡ やッ…：あ！ ああ…!!? くううン♡』

♡グッ♡

『ねっ、ねえ!? モニター…モニターって何!? なんのことなの!?』

『くくく…知りたいですか?』

『まあ、知っていたいた方が楽しみも増えるかもしれませんがね』

『んっ…ああ♡くう…いい、いいから…早くうん!? 教えて…!!』

『この部屋にはですね
目立たないように数台のカメラが設置されているのですよ』

『ッ!? カ…カメラ!? まさか、それって…ッ!?』

『ええ、撮影されている…ということです。』

『部屋の様子はライブで艦内のモニターに配信され
男性陣が食い入るように見ていることでしょう』

『う…うそ…? ど、どこから撮って…いやあ!?』

『顔をそむけても無駄ですよ。』

『カメラは四方八方全方位からヨーコさんを狙っていますからね』

『あ、ああ…くうッ。ホント…ホントに最低だわ…あん
ひあッ!? ま…待つて! いやっ…見られてるのに、こんな
あッ♡んん! うんん…ッ♡』

『おやおや…せめて声だけは…ですか?
すでにいまさらという感じですが…』

『そんなヨーコさんにもそられますよ…れろろおっ!』

『んんう…!? んっ…うんん♡や…はあん! あんんんッ♡』



「んッ…うんん♥ふッ…んふう!?んはあ…んッ、あんん♥」

「じゅばあ…くくく、口をふさいでいても
声は全然我慢できていませんよヨーコさん。
それにしても無防備な乳首を味わうのはたまりませんねえ」

「んんッ!?んあ…んっ…うんんッ♥ふう、ふうッ…んつくうん…♥」

「しかし…ヨーコさんのお綺麗な顔が見えないのは皆さんもご不満でしょうし
ふむ、ちよつと失礼しますよ」

「んッ!?んん…!!くう…ちよ、いやッ…んく…やめて…!」

くさあ…

「おやおや…いつの間にか随分ととろけたお顔になられて

気丈なヨーコさんのこんな表情

お仲間の方々はさぞ驚くことでしょうね」

ふるふる♥

「やあ…お願い、見ないで…みんな…!」



ロロロレ

「いただきます」

『だ…だめ…ッ!? キスは…キスは…大切な……』

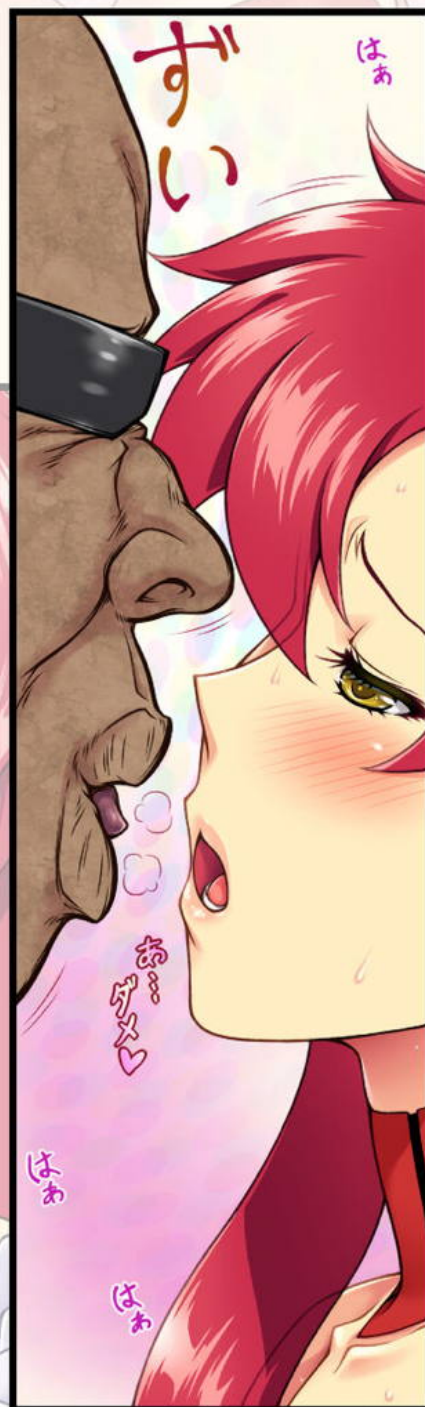
「キスくらい慣れたものでしょう?
くくく…ヨーコさんの唇は実に美味しそうだ」

『はあ…はあ、んッ……え…あ……ちよ……!?!』

「……ごくり。
改めて本当にお綺麗ですねヨーコさんは。
私もうしくなく欲望に流されてみたくなってしまうよ」

いやあ……

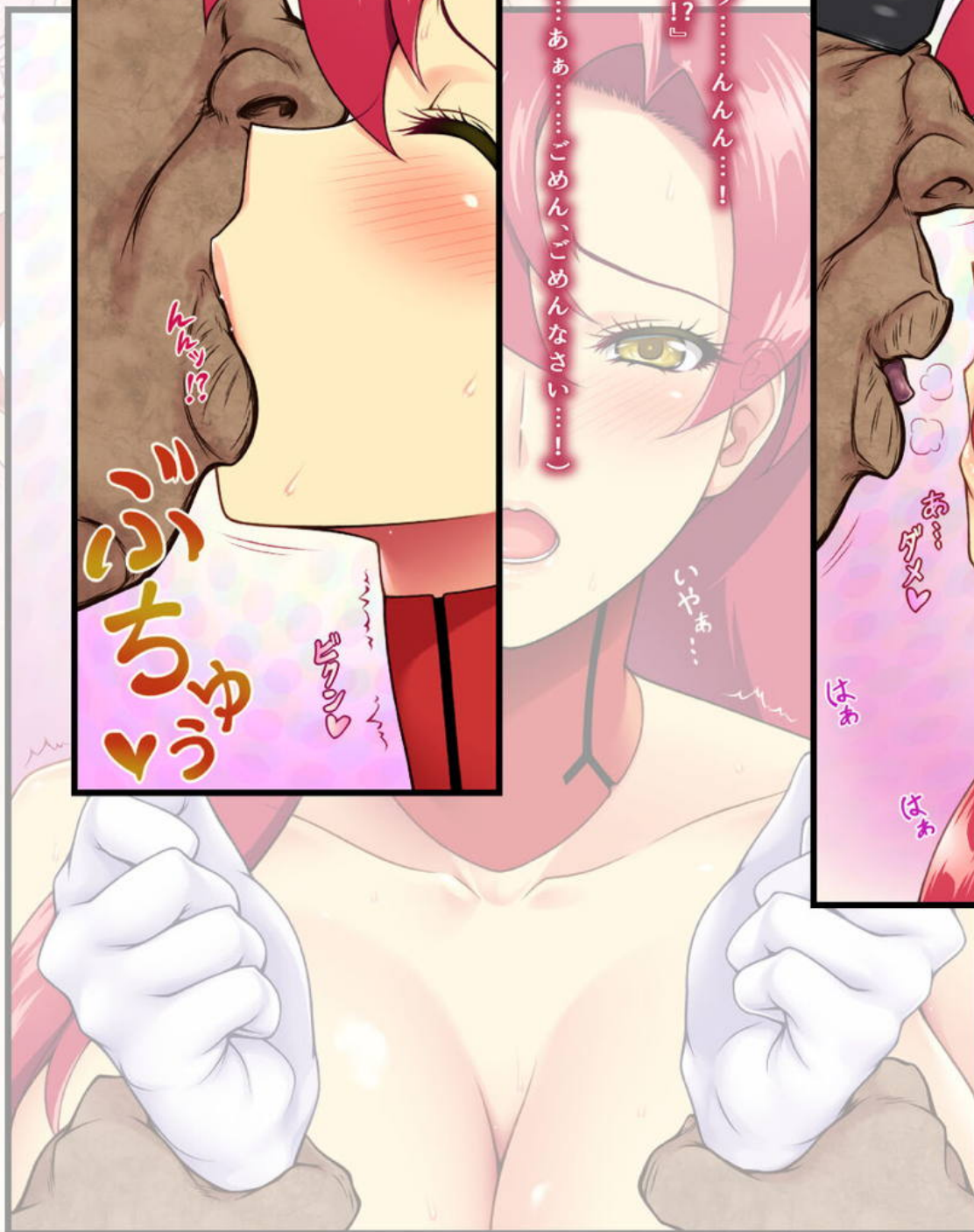
ふるふる♡♡



ロロロレ



『うんんッ!? いあ…やッ……んん…!!』
んふ…う……うんんッ!?』
(いやっ…いやあ!?)
キス……こんな簡単に…あぁ……ごめん、ごめんなさい…!!)



『んううツ…ん♥ うんん!? んはあ…も…やめ…』

「くくく…ああ、ヨーコさんの唾液は実に美味だ。たまりませんよ」

（ちよっ…いやあ! 舌…入れないでっば…やめてツ、気色悪い…!!）

「んはああ…ヨーコさんは意外にキスに弱かったんですねえ…くくく」

『はあ…はあ…別に、苦しいだけ…んツ…や…んふ♥ うんんツ♥』

んん!?

いん!

たぷい

たが♥

クチ

ビクン

「じゅぶあ…ヨーコさん…ちゅ…そろそろ次のお楽しみとまいりますか?」

『うんんツ…んあ…はあ、はあ…次? んちゅうんん!』

（何…するつもりなの? こんな状態で…ツ!? え…うそ…そこは!?）

『んツ…んん!! いや! うんん!? うあ…んんツ!!』

（みんなに見られながら…大切なトコロを…こんな男に許すのは…）

「うんん♥」



『んんッ…うん!! ぶはあ……ちよ…待って! そこは……ッ』

『くくく……ここまできて抵抗しないでくださいよ。
本心ではヨーコさんも期待しているのでしょうか?』

『バカなこと言わないで……!!
こんなこと、期待するわけが……やッ…だ、ダメえ!』

『おほお…これはこれは……熱々じゃないですか。
感じてましたものねえ…ヨーコさん』

『いや…いやあ……こんな男の指がアソコに触れて……あ♡
そんな…いじっちゃ……!?!』

『んッ!? うんん……♡
うあッ…やめて!! くうう…ん!? んんあ……♡』

「今更声を我慢したところで無意味じゃないですか？
まあ……またすぐにたつぷりと鳴かせてあげますが。」
ほら、こんなのはどうです？」

『ひッ!? うつくうん♡』

あッ…やあ…んッ、うんんッ!? お願…いッ…んあああ……♡』

「おおっ！ ナカはキツキツですねえ……しかも蜜でトロトロだ……くくくく」

（うそ!? 私のナカに指が入って……あッ!? ああ……♡ かきまわさないで!!）

『くう…んッ、うんんッ♡んあ♡』

いやああ…!? やっ…ふあ♡やめてえ……!!』

「ヨーコさんはこちらの具合も一級品のようだ。」

これは皆さんに喜ばれますよ。

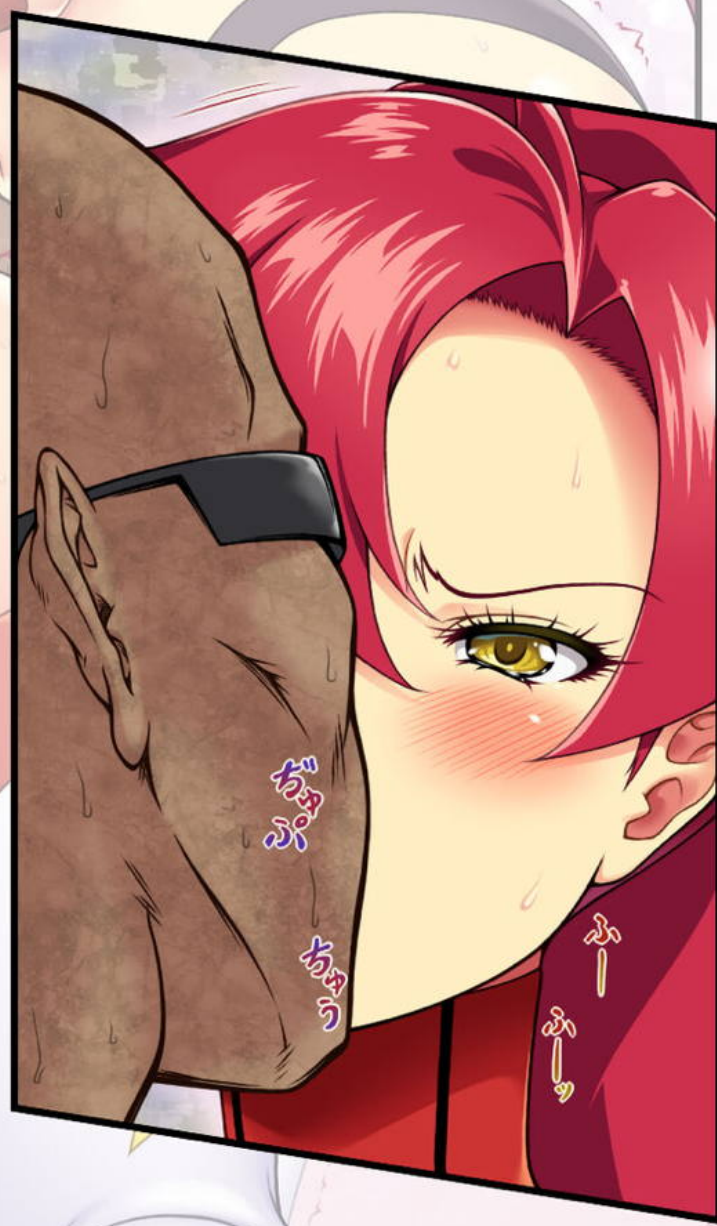
さてどのあたりが弱いのか……ここかな？

それとも…このあたりですか？」

『はッ!? いあ…うあッ♡やだ! やっ…そこはあ!』

ああッ♡気持ち…良い……!!』





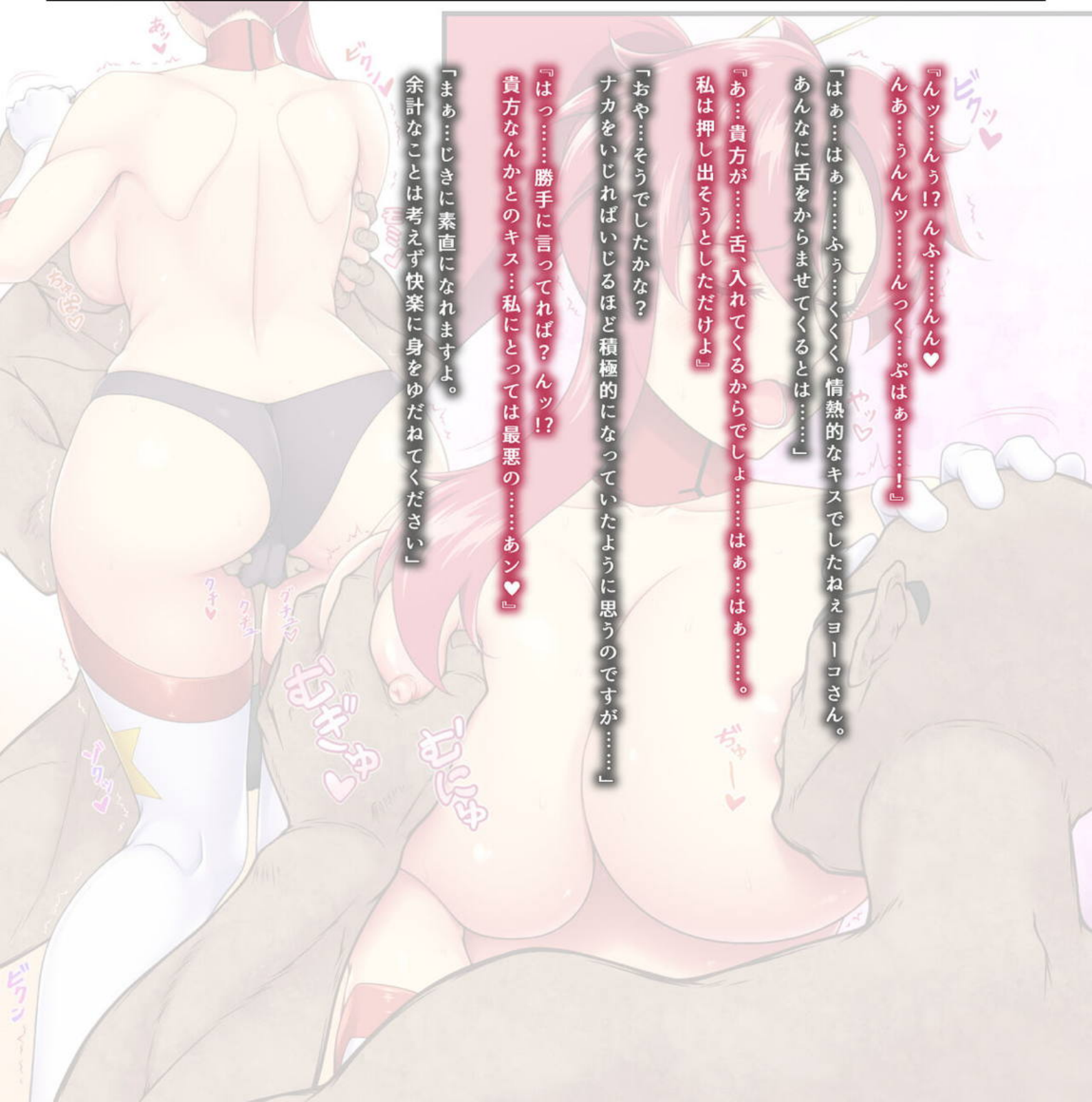
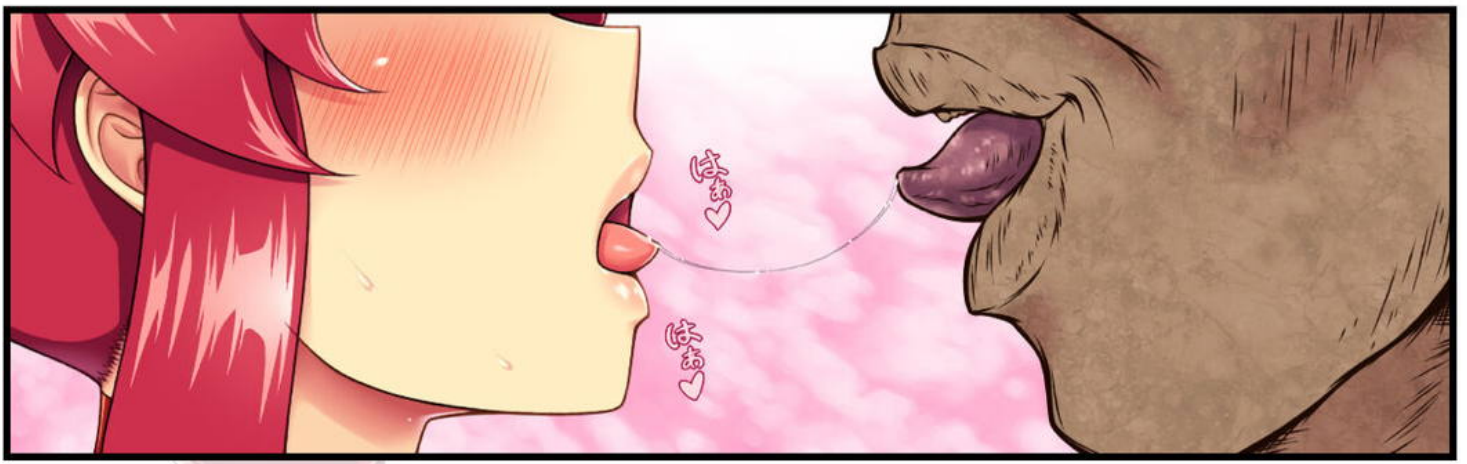
「おや、もう声が……どうです……また口をふさいでみますか？
……ほら……ちゅ、ちゅぷう……」

『やッ……んん!? ああ……んちゅ……んあ……んッ♡♡♡
ちゅ……ん……うんん!? くうん……♡♡』

(そんな……自分からキスしちゃった。違う……これは口ふさぐため……。
私にこんなことして……)

この場を切り抜けて、ダリーたちみんなを助けたら♡
こいつらただじゃおかない。
絶対に、死ぬほど後悔させてやるんだから……!!)





『んっ…んう!? んふ…んん♡
んあ…うんんっ…んっく…ぶはあ……!!』

『はあ…はあ…ふう…くくく。情熱的なキスでしたねえヨーコさん。
あんなに舌をからませてくださいとは……』

『あ…貴方が…舌、入れてくるからでしょ…はあ…はあ……。
私は押し出そうとしただけよ』

『おや…そうでしたかな?
ナカをいじればいじるほど積極的になっていたように思うのですが……』

『はっ……勝手に言ったらば? んっ!?
貴方なんかとのキス…私にとっては最悪の……あん♡』

『まあ…じきに素直になれますよ。
余計なことは考えず快楽に身をゆだねてください』

むぎゅ♡
はっ♡

ぐわん♡
わん♡

はっ♡

はっ♡



『やッ……ダメえ!? 今、乳首は…はあん♡
ナカと…いつぺんにい……ふああッ♡』

『れろお…しつとりとかいた汗の味が良いアクセントになって……ちゆる。
ちゅぶ…じゅぶう! さらに美味しくなってますよヨーコさん』

『あッ!? くうん♡ お願……やめてえ……!
同時にせめられたら…やあ♡ 私い……っ♡』

『乳首を吸い上げるとナカがキュッと締まりますねえ…くくく。
これまでの相手にはさぞ喜ばれたのではないですか?』





『んつくうう…ッ♡』

し…知らないわ…よ！んッ…ああ♡だめ、だめッ…だめえ！』

「締め付けが良すぎてナカがしゃぶり付いてくるようですよ。
指が上手く動かせないほどだ。」

ほら…少し力を抜いてくださいよ…：…ほら、ほらッ」

『いああッ!?そこは！ダメってえ…あッ♡
んああ♡変になっちゃ…うああッ♡イツ…!』

(ダメよ…それだけは言っちゃだめ…。)

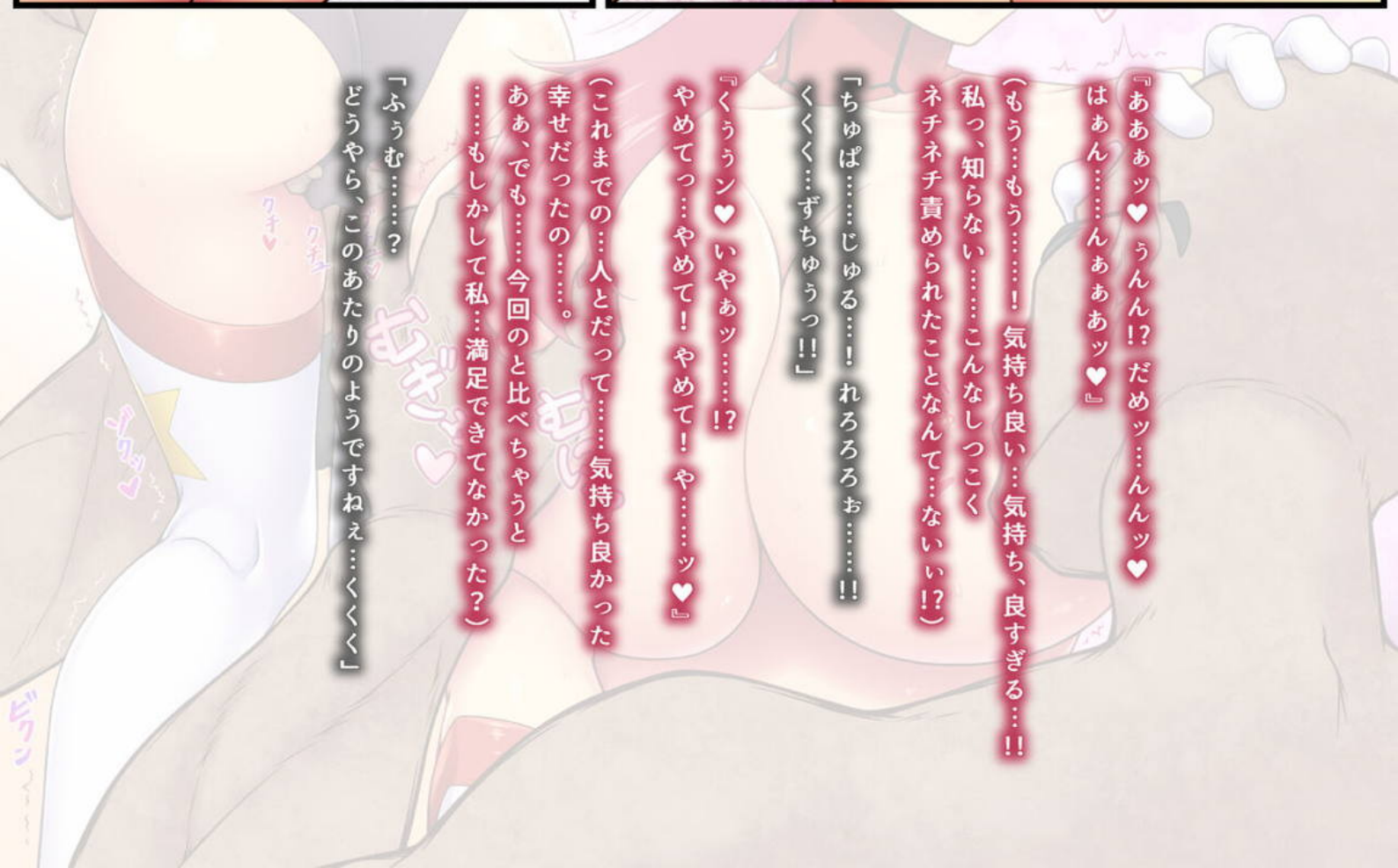
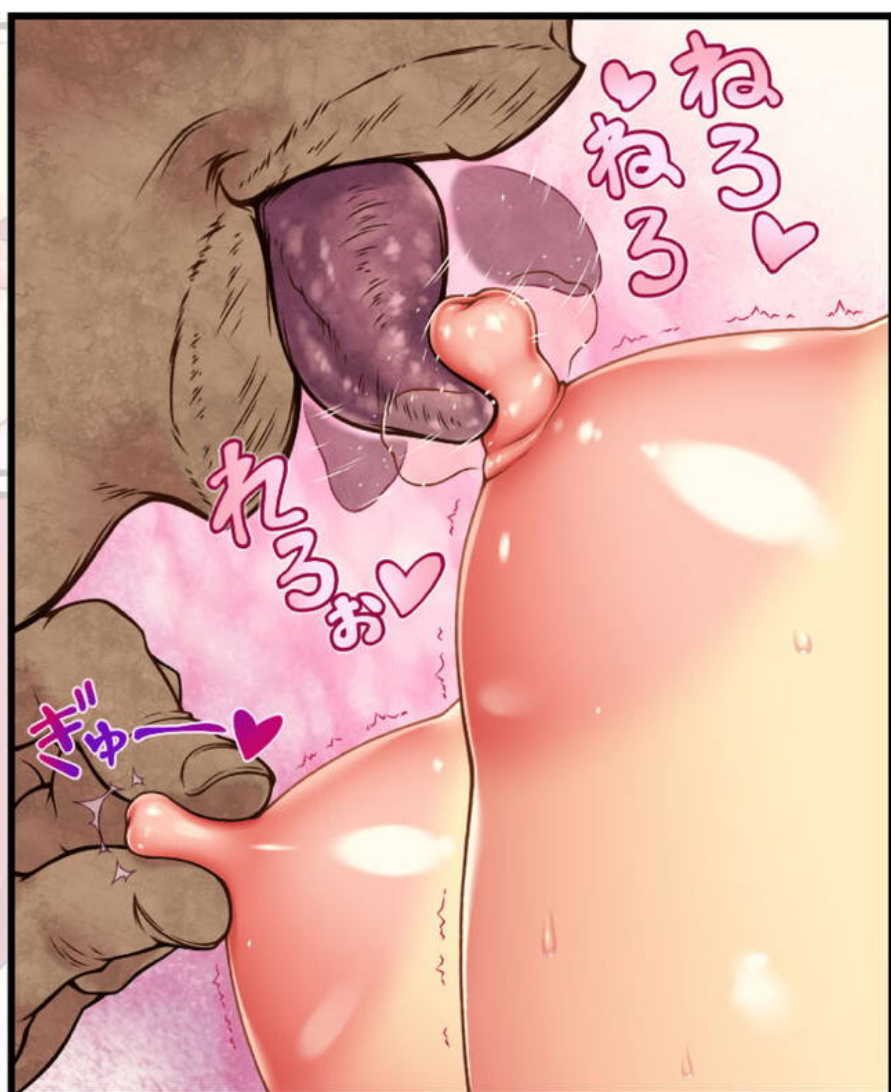
たとえ…身体が言うことをきかなくても…：絶対…！)

むぎや♡
らふや♡

クチ♡
クチ♡

アッ♡

アッ♡



『あああッ♡ うんん!? だめッ…んんッ♡
はあん…んあああッ♡』

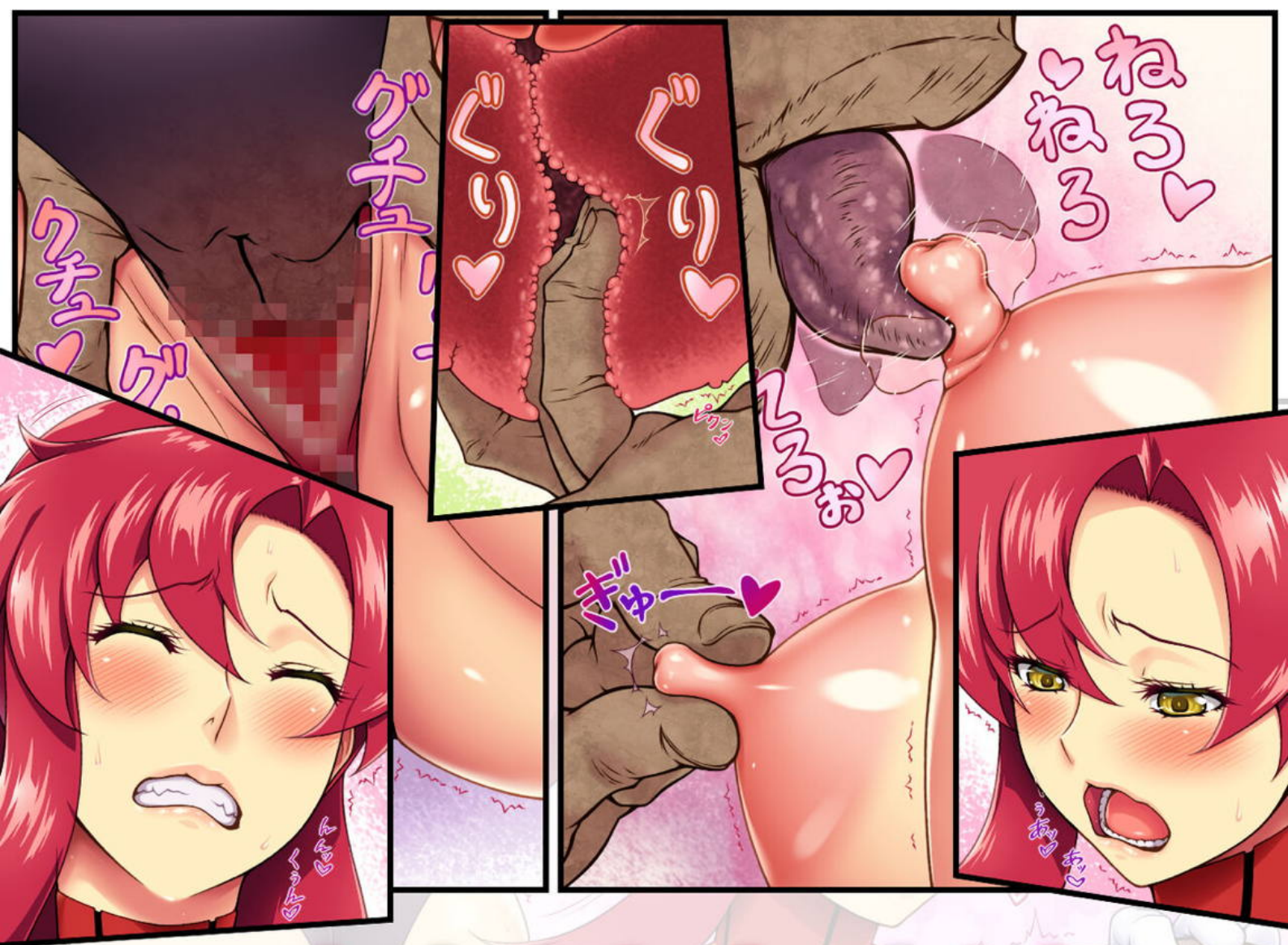
(もう…もう……! 気持ち良い…気持ち、良すぎる…!!
私っ、知らない……こんなしつこく
ネチネチ責められたことなんて…ない!?)

「ちゅぱ……じゅる…! れろろお……!!
くくく…ずちゅうっ!!」

『くうん♡ いやあッ……!!?
やめてっ…やめて! やめて! や……ッ♡』

(これまでの…人と違って……気持ち良かった
幸せだったの……。
ああ、でも……今回のと比べちゃうと
……もしかして私…満足できてなかった?)

「ふうむ……?
どうやら、このあたりのようですねえ…くくく」



『ツ!? あ……え!? な、何が…んああああツ♡』

（う…うそ!? なんなの…今……頭…真っ白に……!?!）

「どうやらここが……」

ヨーコさんの一番弱いポイントみたいですわねえ。
もしかして、ご自分でも知らなかったのですかな？」

『いやッ…そんな、こと……はあん♡』

ダメ! そこ……あ! うあ♡ あああツ♡ すご……いい!？」

（こんなの……ホント、ダメになっちゃう……!）

気持ち良いなんてレベルじゃ……ないッ。

何も考えられなくなっ……

身体のナカから……あ、あふれて……きちゃう!?!）

「もう限界でしょう…ヨーコさん。

ほら…いいんですよ? さあ……我慢せずに」

『やッ! あああ♡ いっ…いやよ!』

んあツ♡ そこは…だめ! だめえッ!?! いやああ……♡!』

『いやあ!? イキたくないッ…イカされたくない!!
んんッ♡うあああ…♡
あんたなんか…!! あんた、なあ…ああン♡』

「ずちゆるるう…!! くくく…!! やれやれ、大洪水だ。
身体の方が素直ですねえヨーコさん」

『み…みんなが…!! 見てるのに…!!
やつ、あッ…あああ♡ら、らめ…!!?』

(意識が飛んでつちやう…!! ああ、すごい…すごい♡
あの人とでも感じられなかった…これが、ホントの…!! 絶頂…ッ!)

「くくく…イク時はちゃんと言うんですよ?
皆さんにもちゃんと分かるようにね」

『ああ…♡ダメ! イッ…!! いああ♡もう…わ、私…!!?』

(ごめんなさい! ごめんなさい…!! がまん、できない…!! つ!!
イッちやう…イカされちやう…!!
ふあああッ♡幸せになつちやうう…♡)





『ッ!? ツ!?!? つあ!?!? くううんん……ッ♡』

(あっ……ああ♡いああッ♡も、もう……!?)

「イクと言いなさい。でなければここで終わりにしますよ?」

『やッ!? ちが……あッ!? んああ♡ ホント……にッ……私い……!?!』

(カミ……ナ……!!)

『イク!! イツちゃう……♡』

イクのッ、イク! イク♡ イクう……♡

イツ……くうううう!!』

(……ああ♡ ふあああ!?! すっ……お……い♡)

ビクッ♡

ビクッ♡
ビクッ♡



おっぱいを見せつける刺激的なコスチューム

男なら誰でも生で見たいと切望する I cup 爆乳

地球連邦軍 極秘部署 「特殊衛生班」からの流出映像!!

ヨコリットナー

敏感な陥没乳首をネチネチいじられビンビンに……

甘味すぎる美味すぎる甘いミルク味の乳首

おっぱい開放生乳の破壊力

たつたぶ最高の重量感

produced by ameoto 監督 男優 COMMANDER

DLC

ADULT CG COLLECTION

29PAGE 希望小売価格 ¥600+税

TOP SECRET VIDEO

UTAKATA

花街姉妹店 <http://ameotoxkazumi.x.fc2.com/>

18 成人限定作品 成人限定作品 成人限定作品

[A-0000150]

TOP SECRET HS UTAKATA

地球連邦軍 極秘部署 「特殊衛生班」からの流出映像!!

ヨコリットナー

Yoko rittona

21歳 現役パイロットの瑞々しいカラダ 揺れまくる神乳

魅惑の陥没乳首はじける

I cup

地球連邦軍 極秘部署 「特殊衛生班」からの流出映像!!

ADULT CG collection ¥600+税 DL-SELL



地球



連邦軍

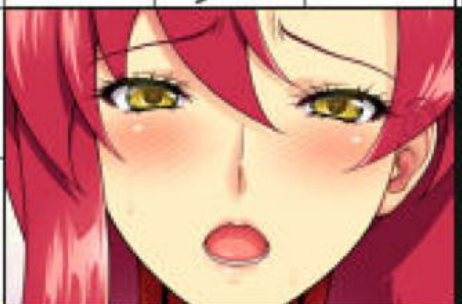


特殊

衛生班の



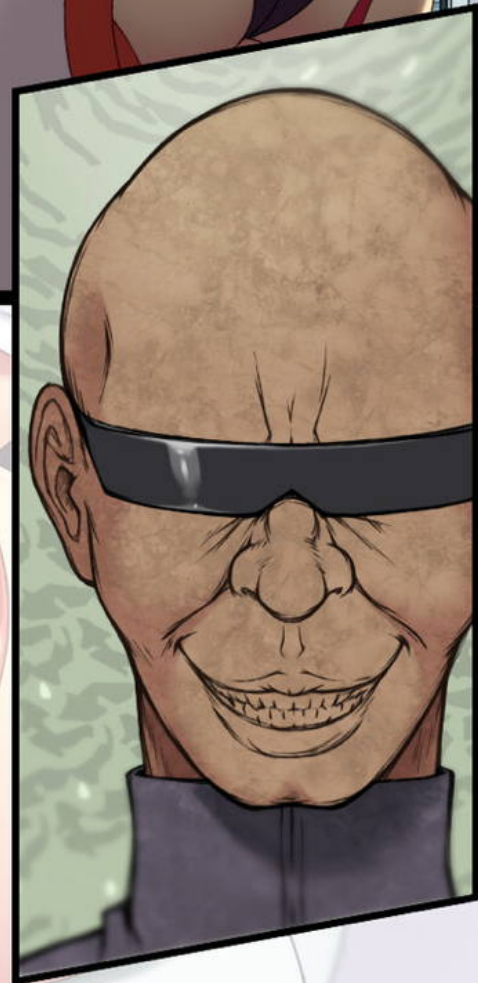
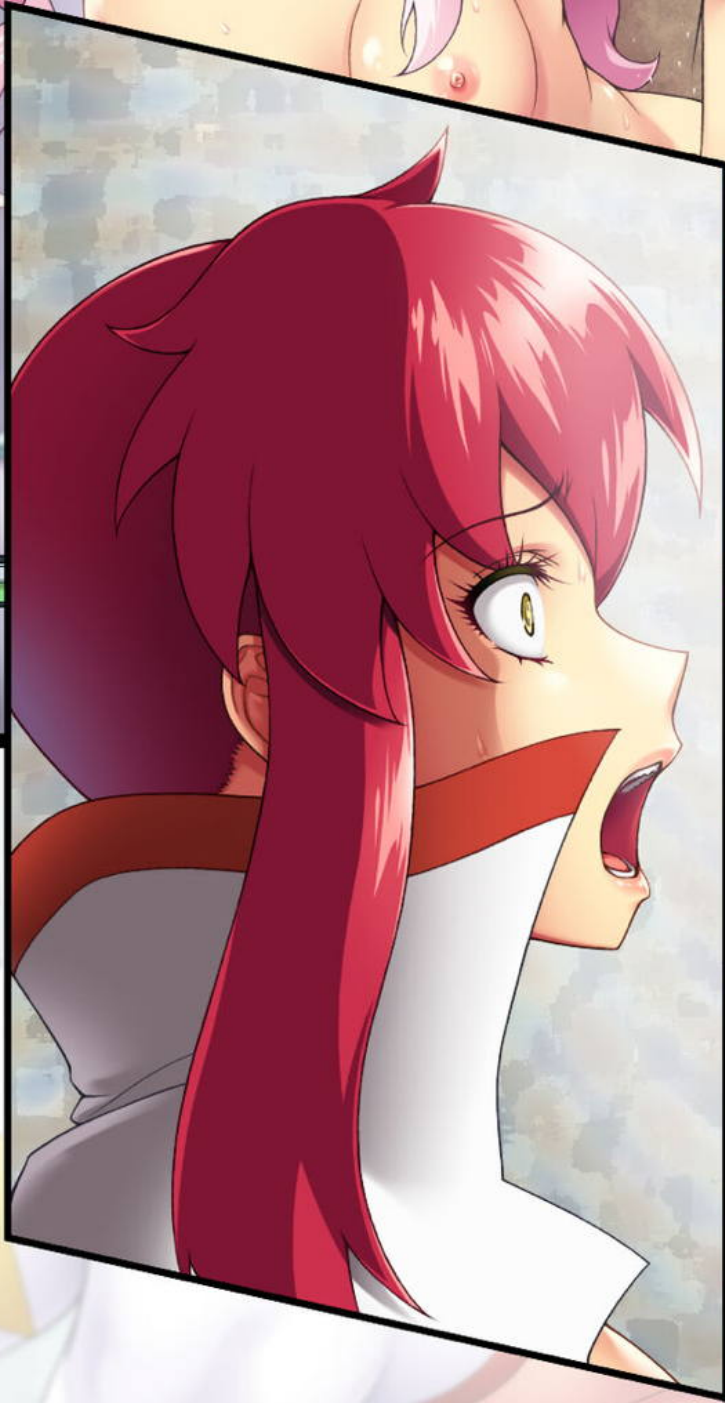
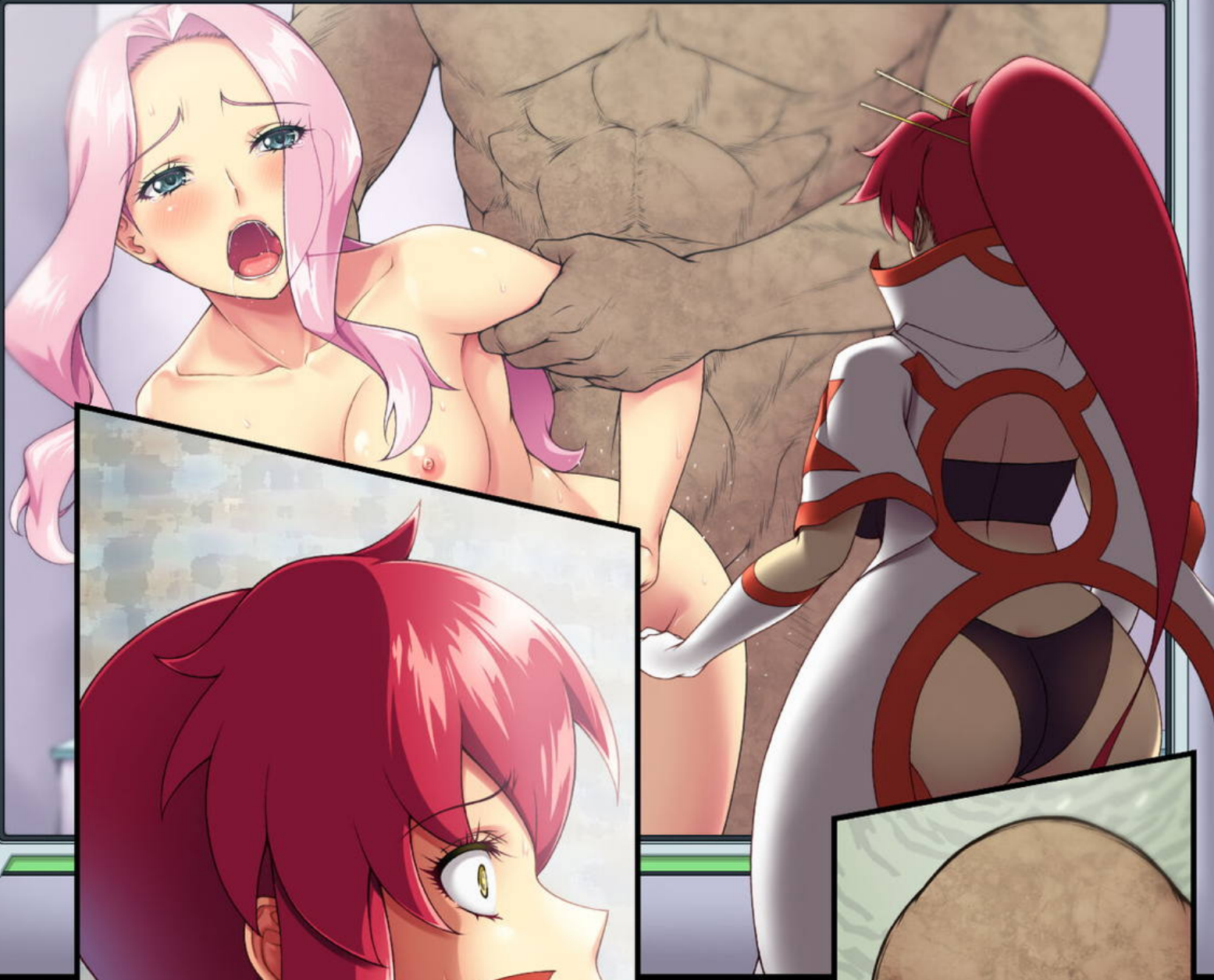
ヨ
○
コ



さん

















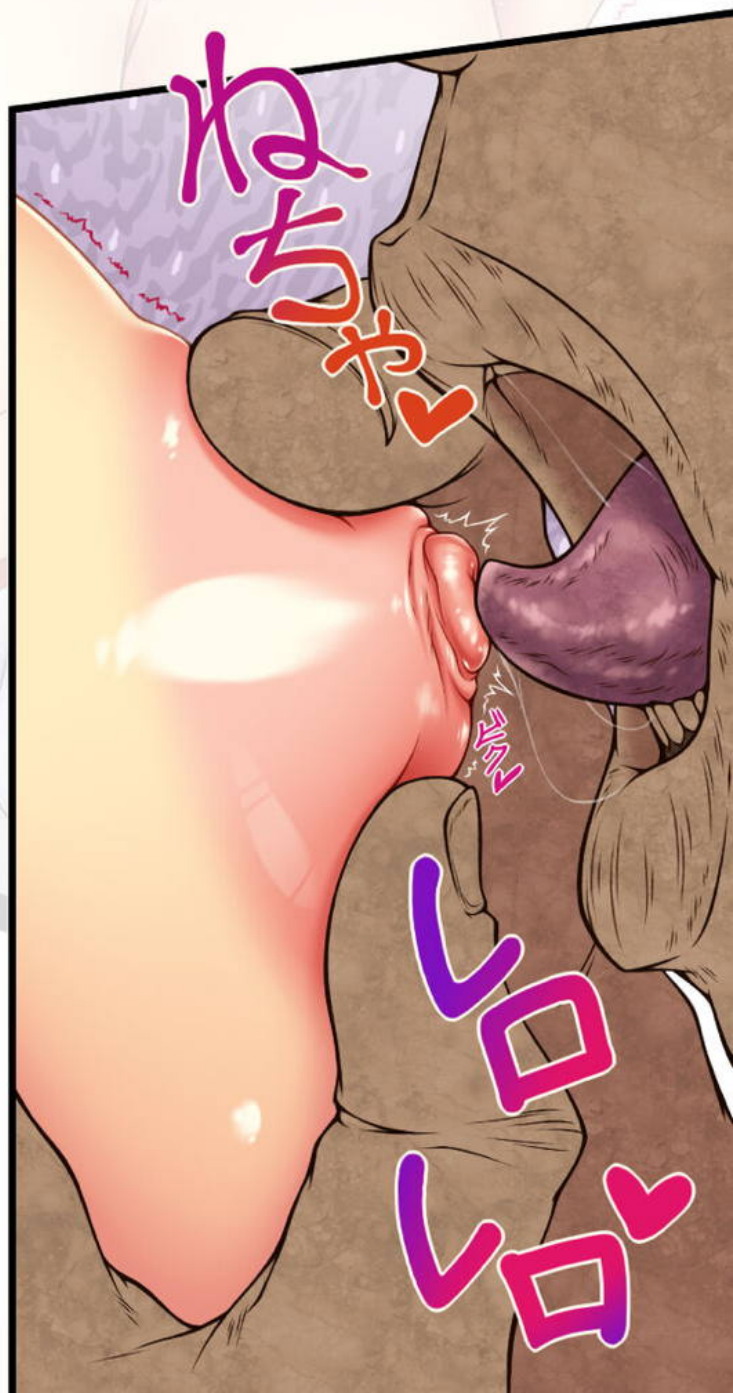
くっくっ

たっ
たっ

たっ
たっ













ロロロロ♡

♡ロ

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

